

第 27 回足立区住宅政策審議会

1 日 時 平成 29 年 5 月 9 日（火） 午後 14 時 00 分から午後 14 時 30 分まで

2 場 所 足立区役所 特別会議室（中央館 8 階）

3 出席者 足立区住宅政策審議会委員（13 名）

大村謙二郎会長、明石達生副会長、遠藤薫委員、新井ひでお委員、古性重則委員、鈴木けんいち委員、佐々木まさひこ委員、竹村清子委員、上野須美代委員、森田和彦委員、横村隆子委員、田中敬三委員、石垣貴伸委員

足立区住宅政策審議会幹事（8 名）

副区長、政策経営部長、福祉部長、子ども家庭部長、都市建設部長、市街地整備室長、みどりと公園推進室長、建築室長

関係区職員

地域調整課長、福祉部副参事、子ども政策課長、企画調整課長、都市計画課長、まちづくり課長、みどり推進課長、建築調整課長

事務局

住宅課長、住宅更新担当課長、住宅計画係長、住宅計画係主任、住宅計画係主任、ランドブレイン(株)

4 議事等 （1）足立区住宅政策審議会幹事の交代について

（2）会長挨拶

（3）答申

（4）区長挨拶

（5）意見交換

（6）事務連絡

5 資 料 【資料 35】足立区住宅政策審議会委員・関係出席者名簿

新たな足立区住宅マスタープランについて（答申）

○住宅課長 定刻になりましたので、ただ今より、第２７回足立区住宅政策審議会を開催させていただきます。

本日は、お忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は、審議会の事務局を務めさせていただいております住宅課長の石井です。よろしくお願いいたします。

はじめに、事前に送付させていただいております資料の確認をお願いします。資料番号は前回からの続きの通し番号になっています。

最初に、本日の第２７回住宅政策審議会の次第です。

次に、資料３５ 足立区住宅政策審議会委員名簿です。

最後に、新たな足立区住宅マスタープランについての答申書です。

以上が、本日の資料になります。不足などはございませんでしょうか。

はじめに、次第の１、審議会幹事の交代についてご報告いたします。資料３５の審議会委員名簿をご覧ください。

４月１日の区の人事異動に伴いまして、審議会幹事に変更がありました。変更のあった幹事のお名前をお呼びしますので、その場でご起立いただき、一礼の上、ご着席をお願いいたします。川口福祉部長。○福祉部長 川口でございます。よろしくお願いいたします。

○住宅課長 大山都市建設部長。

○都市建設部長 大山でございます。よろしくお願いいたします。

○住宅課長 佐々木みどりと公園推進室。

○みどりと公園推進室 佐々木でございます。よろしくお願いいたします。

○住宅課長 以上が変更幹事になります。また、役職の変更幹事及び関係職員につきましては、名簿に記載のとおりです。紹介は割愛させていただきます。

続きまして、本日、区長への答申を行うにあたり

審議会委員１６名を代表して、大村会長からご挨拶をいただきたいと存じます。

それでは、大村会長お願いいたします。

○会長 本日もお忙しいなかお集まりいただきましてありがとうございます。昨年の３月から今日で７回目になりますけれども、住宅政策審議会を開催して、今日、答申を区長にお渡しするという段取りになっております。その間、皆様方に熱心にご議論いただき、また企画部会の方でもいろいろ議論をしてまいりました。前回の審議会で貴重なご意見をいただいた後、事務局の方で少しご訂正いただいた形で、今日の答申という形で取りまとめていただいております。今日お渡しした後、区のスケジュールは、パブリックコメントという形で区民のご意見を伺うということで、最終的に確定したものではないと思いますが、ほぼ内容的には固まったものになっているのではないかと思います。答申をお渡しした後で、自由に意見交換する機会を設けていただけるようでございますので、皆様方にご意見を交わしていただければと思いますが、この間、長い間にわたってご議論いただきまして、一応こういう答申にまとめられたということで、感謝いたしております。ありがとうございました。

○住宅課長 大村会長、ありがとうございました。

続きまして、次第の３ 区長への答申書の提出です。本日、急きょ近藤区長におかれましては、他の公務のため欠席とさせていただきます。大変申し訳ありませんが、代わりに、長谷川副区長に答申書を提出していただきます。大村会長、長谷川副区長、よろしくお願いいたします。

○会長 答申、平成２８年３月１日付で、貴職から諮問のありました「新たな足立区住宅マスタープランについて」、ここに結論を得ましたので、本文のとおり答申します。

平成２９年５月９日、足立区長 近藤やよい様

足立区住宅政策審議会会長 大村謙二郎

○住宅課長 ありがとうございました。大村会長は

お席にお戻りください。区長に代わり、長谷川副区長よりご挨拶申し上げます。

○副区長 一言私から御礼のご挨拶を申し上げます。先ほど会長からもお話がありましたように、昨年の3月から審議会が今日を含めて7回、それから企画部会が6回ということで、13回にわたって皆さんに慎重なご審議をいただきまして、今回、新たな足立区住宅マスタープランの答申をいただきまして、本当にありがとうございました。足立区は様々な面で魅力が高まってきているという評価もありますけれども、やはり住宅政策をこれからどう展開していくかということがさらに足立区の魅力を高めていく大きな柱となる計画になると思います。今回の答申を十分尊重させていただいて、区の計画としてまとめさせていただいて、10月には再度ご報告させていただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

○住宅課長 おかげさまで、本日、無事に答申を行うことができました。改めまして、委員の皆様、ありがとうございました。

ここからの議事進行につきましては、大村会長にお願いいたします。

○会長 次第の5 意見交換という形になっております。今後の足立区の住生活に関する議論を進めてきた中で、委員の皆様からご意見やご感想などございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。

私の個人的な感想を最初に申し上げて、それをとっかかりとしてご自由にご発言していただければと思いますけれども、昨年の3月の住宅政策審議会の冒頭述べさせていただいたのですが、足立区と関わりを持たせていただいたのがだいぶ前で、ひょっとしたら30年近く前になるかもしれません。足立区や東京の周辺区は、旧緑地地域を解除するにあたって東京都が非常に短期間にわたって区画整理を施行すべき区域として区域指定をされた。ところがなかなか思ったように基盤整備、区画整理が進まないというような状況の中で、細街路も含めてどうやってい

くのかということの議論がされて、当時、都立大にいらした高見沢先生がリーダーになられて、私もそのメンバーに加えていただいてやらせていただいた。その時から足立区の行政の方々といろいろお付き合いをさせていただく形になって、足立区の行政の方々が地区別計画、足立区をコミュニティ単位に分けてやっていくことを熱心に取り組んでいらしかった。それ以降、幾つかの足立区のプロジェクトに参加させていただいたんですけれども、それから少し間が空いて住宅マスタープラン作成のお手伝い、審議会に関わらせていただいた。考えてみるとこの間、足立区も東京も含めて、高度成長期に急激に成長して、足立区は住宅政策上、東京都の住宅政策にとっても非常に重要な役割を担ってきた。この審議会の中でも議論されてきた都営住宅ストックについて、いろいろな形の表現がございましたけれども、大きな役割を果たしてきた。ただ、時代環境が大きく変わっていく中で、こういうストックを含めてどういう形で住宅施策を展開していくのか。なおかつ住宅だけではなく、今回は住生活という形で住宅を取り巻く生活環境の問題も議論しました。日本全体では人口減少の社会に突入しているわけですけど、東京はまだ少し人口が増えているけど、早晩、人口も伸びていかない、世帯も減少していくような動向で、なおかつ高度成長期と違って、人口の構造、世帯の構造、住宅や住環境への欲求も変わってくる中で、どう考えていくのかというなかなか難しい議論だったんですけれど、その中で足立区らしい特性を活かした住宅マスタープランが議論できて、成案として取りまとめられたのではないかと考えております。まだ、やり残していること、議論しつくしていないこともあるかもしれませんが、これをベースとして、区民の方々の参加を得ながら、魅力ある足立区の住環境、住生活が展開できるとすごく良いのかなと考えております。私自身は足立区民ではありませんけれども、足立区は時折訪れる好きなまちですので、変わらずいろいろな形でお付き合い出来れば

いいなと思っています。感想めいた話で恐縮ですが、もし皆様方でご意見ご感想があればぜひお願いいたします。

○遠藤委員 企画部会会長を勤めさせていただいた遠藤でございます。私の所属が電気大学ということもありまして、足立区とはいろいろなところでお付き合いさせていただいています。地方創生、人口減少消滅可能性都市といった議論がどこでもなされていて、どんどん人口が減っていく。ところが、細かな動きなんですけど、それから1年、2年と経ちまして、実は東京23区の外周区の子どもは増えているんですね。職場も近くにあり、できればこういうところで子育てをしたいというニーズが高い。率でちょっと上がったけなんですけれども、23区の率がちょっとでも上がるということは、世帯数では非常に増えているということになりますね。早晚人口減少になるかどうかは、私はもう少し先のことと見ていますけれども、日本全国ではかなりアンバランスなことになると思いますが、足立区は日本の人口減少社会に対して重要な役割を担っている。その中で住生活マスタープランがどういう情報発信ができるか、非常に重要な役割を担っているというつもりで、足立区独自のマスタープランがどういうところできたか。いくつか入っているかなと思っておりまして、皆様のおかげで企画部会から今日を迎えたわけでございます。どうもありがとうございました。

○会長 ご自由にご意見をいただけたらと思います。答申案でもまだご意見がある部分もあるかもしれませんが、タイムリミットがありますから、エンドレスに議論できるわけではございませんけれども、それぞれご意見やご感想があればお聞かせ願えればと思います。

○明石委員 今回、足立区の住生活マスタープランに参加させていただきまして、実は足立区にすごく前から注目していて、ここに来る前から、3年生の授業で一コマを費やして足立区を取り上げていたんです。学校自体は世田谷区にあるんですけど、世

田谷とは全然違って、世田谷の方がいろいろと宣伝はされますが、内容はまるきり足立区の方が深いと思います。それはどうしてかという、一番社会の大事なところを考えて、華々しいんじゃないんだけど、やるべき仕事をされている。特に、一つは公共サービスの行政改革をやる中で、地方自治法などに区の仕事としてこれとこれをやりなさいと書いてあるような、定型的な業務はアウトソーシングして、公務員でなければならない業務に人を割り当てているということがございます。例えばそれは、孤立ゼロプロジェクトや空き家、ゴミ屋敷の問題などもありました。個人情報にも関係するし非常に辛い仕事なんだけれども、公務員でなければならない仕事にきっちり目を向けてやっている区というのは、他の自治体を見ても非常に珍しいところでありまして、そういうことでとても関心を持っていたんですね。答申を作るにあたって、タイトルを変えればどこの区でも通用するようなものではなくて、足立区らしいものを、と思っていたものですから、多少事務局の方々にもご苦労いただいた点もあるかもしれませんが、そういう目で意見を言わせていただいております。例えば、見守りのこと、一番弱い立場にある人を含めた形でのことが、ほかのマスタープランではなかなか目が向かない。福祉のところはあると思いますけれど、福祉以外のインフラや公共施設、まちづくりといった部分では目が向かないところについて、できるだけ入るようにと考えてございました。特に要望することはないんですけど、今後、まちの不動産屋との連携などを役所の方も強化できると、より足立区らしい特色のあるものができるのではないかと考えています。これから空き家も増えてきますけれども、そうしたことを全てが役所がやれるわけではなく、地域が地域で見守り合いながら、どう対処するかも地域で考えるように、ということが出来る、そういう行政をしている非常に珍しい区だと思ったりしています。そういう形で、いままで区の民生委員の方など、色々と

区民の見守りをやってきましたが、さらに建築や不動産に関わる地場の事業者の方々とも上手く巻き込まれていく形がとれるとなおよいのかなと思います。

○会長 他にご自由にご発言していただければと思います。

○古性委員 私は持論で、日本の国が未来永劫、持続可能な社会を作るためには、大家族を奨励しないといけないと思っています。それはなぜかと言いますと、日本の社会保障費は 1950 代に 1,263 億円しかかかっていなかったんですが、2020 年には 134.4 兆円もかかると試算されているんです。人口が 1.5 倍しか増えていないのに、社会保障費は 1,066 倍も増えるということなんです。それは他でもなく、高度成長時代に入って核家族で家族が分散して生活するようになったことが最大の原因だと思っています。この中で良かったなと思っているのが、答申の 70 ページと 73 ページを拝見し、特色ある住宅地の展開の中で、70 ページの近居・隣居と 73 ページの二世帯同居があります。実は足立区も他区と同様、待機児で非常に苦労してしまっていて、そのために相当な労力を払ってきているんですが、逆にまた増えてしまった。これは分析をしますと、0～2 歳児で 97% なんです。3～5 歳児はわずか 3% しかいないです。特に 0～1 歳児は 76% にもなってますね。この 0～1 歳児を二世帯住宅や近居・隣居でまかなうことができれば、全体の待機児が大きく改善すると思うんです。0 歳児は家庭でみられる環境づくりを行政が応援する。そういうことによって待機児対策をする。保育園を作って待機児対策をすると、私も申し込みをしようという人を増えて、逆に作れば作るほど需要も増えてくるということが、こういう結果になっていると思いますので、0～1 歳児の対策をどうするかによって、待機児を解消するべきだと思っています。そうしなければ、延々と問題として継続することになりかねないと思っています。そういう意味では答申の中にあるこの 2 つの部分はとても嬉しいなと思っています。ぜひこれを率先してやっていただけるようになれば、

待機児解消もそうですが、例えば孤立ゼロプロジェクトも同じこと、介護者の方も同じことだと思います。ぜひ大家族制度を足立区が率先して行える環境づくりを皆さんとともにしていただければありがたいと思います。

○会長 他にいかがでございますか。

○鈴木委員 7 回もやってきたということで、いろいろご意見も申し上げてまいりましたが、今日は感想ということで申し上げます。審議会そのものは住宅政策審議会で、作ろうとしているのは住生活マスタープランということで、以前は住宅マスタープランだったものに生活が入った。良いことだと思っていまして、住宅は大事なんですけれども、結局住宅は住むためのものなので、生活が入るのは良いことだと思って参加させていただきました。新たな住宅マスタープランについて諮問されて、答申して出来るものは住生活マスタープランになるということで、そういう発展があるということで、そういう審議をしてきたのは感慨深いものがあります。例えば、前からもあったのかもしれませんが、買物弱者について解説が入ったり、47 ページで、住教育の導入や足立区らしい住宅・住宅地づくりに関する表彰制度を検討しますと入ったことは、すごい前進だなと思いました。その関係では、42 ページのところ、地域による交流見守りが現状では 0 箇所ですが、中間の平成 32 年には 100 箇所にして、平成 36 年には 200 箇所にするという、非常に意欲的な目標も盛り込まれて、生活という点ではいいなと思いました。別の面では、住まいのリフォームという点では年間で 7 件しか実績がなくて、少し工夫が必要と感ずることもあります。それは改めて別の機会で見聞したいと思うんですが、住生活という観点から議論ができて大変良かったです。これからパブリックコメントで区民の皆様からさらに広い意見が頂けるといことなので、それを踏まえてより良いものにしていければと思っております。ありがとうございました。

○会長 他にいかがでございますか。

○佐々木委員 私は途中からの参加でしたので、特に公共ストックについて、生活保護という観点は削除していただきたいということで、最終的な案としてはそういった項目は削除されましたのでそれは評価させていただきたいと思います。ただ、公営住宅の偏在解消ということで、足立区が突出して公営住宅が多いということの解消が述べられておられますけれども、逆の一面では、公営住宅の建替えがこれから進む中で、創出用地が生まれるという面では、東京女子医大の東医療センターの用地確保にしても、様々な施策展開においても、大きな用地を確保できるというプラスの側面も大きく評価しながら、公営住宅というものを考えていってほしいなと思っています。ライフスタイルや世帯構成、居住ニーズも様々変化してきていますので、都営住宅自身も変化していかなければならないと思いますし、トイレとバスが一緒になっているのは人気がない。そういったことも含めて、建替えを進めながら公営住宅のあり方を足立区として積極的に捉えていって欲しいと思っています。公営住宅の偏在解消と挙げられていますが、プラスの側面も大いにあることを踏まえて戦略的に考えていただきたいということを最後に要望して、終わりたいと思います。

○新井委員 7 回目なのでそれなりに指摘したかなという気がしているのですが、皆様のご意見で答申できたことについて良かったと思います。私も何点かご意見を申し上げたところでありますが、あまりにも行政がこの地域はこうだという誘導的なことをしてはいけないのではないかなと思った次第で、交通の利便性というものは地域の格差として致命的なところですよ。利便性のいいところとそうでないところの違いや、地域の特色は特色として大事なことですけど、その辺も鑑みながらプランというのは考えていけないといけないと思います。新しいプランで持続可能な足立区になるよう、一議員として努めさせていただきたいと思います。

○会長 他にはいかがでございますか。他になれば閉めさせていただきたいと思います。7 回にわたりまして、答申のとりまとめに熱心にご議論いただきましてありがとうございました。この後、事務局の方から、最後の事務連絡をお願いしたいと思います。

○住宅課長 それでは、最後に事務連絡をさせていただきます。今後の予定としましては、本日の答申を受けて、区としての計画案をまとめていきます。計画に掲げられたそれぞれの施策がどの程度進んだかを定量的に測定するため、施策指標の追加検討を考えております。また、計画名称につきまして、他の分野別計画との整合を図るため、住生活マスタープランから、住生活基本計画とすることを検討しています。つきましては、5 月下旬に企画部会を開催させていただき、専門的立場からご意見をいただきたいと考えております。その後、7 月に計画案のパブリックコメントを実施いたします。8 月の月上旬にパブリックコメントでの意見をまとめるにあたり、企画部会を開催してご意見をいただきたいと考えております。次回の審議会は、8 月下旬の開催を予定しております。パブリックコメントのまとめを報告させていただきます。企画部会や審議会の日程につきましては、後日、決まり次第、委員の皆様にお伝えいたします。企画部会の結果につきましても、資料等でご報告させていただきます。新たな住宅マスタープランの策定期限につきましては、10 月末を予定しております。引き続きよろしくお願いいたします。

最後に、お車でお越しの方は出口付近に係員が立ちますので、その旨お伝えください。事務局からは、以上です。

○会長 それでは、これで第 27 回足立区住宅政策審議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上。